

東日本大震災・原子力災害伝承館

福島イノベーション・コースト構想情報発信拠点



令和2年9月20日 開館 (双葉町)

東海福島県人会の皆様方におかれましては、日々の生活の中で益々の御健勝のこととお喜び申し上げます。

私は平成27年度より、吉田弘前会長より会長職を引き継ぎまして、早5年の歳月が流れました。その間、相談役をはじめ役員の方々に多大な御支援と御指導を賜り、また、会員の皆様の御理解と御協力のおかげで何とか務めることができましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

さて、今年度は新型コロナウイルスが日本はおろか世界中で猛威を振るっており、例のない年となっております。我が県人会も感染拡大防止のため、例年開催している様々な行事を中止せざるを得ず、会長として大変心苦しく思っています。特に、年に一度、多くの会員の皆様にお集まりいただき、福島



東海福島県人会会長
関本 幸夫

余談となりますが、福島県では今年、NHK連続テレビ小説「エール」を契機として、福島空港開港以来初めてとなる中部国際空港から福島空港へのチャーター便ツアーを10月末に企画されました。こちらを東海福島県人会として支援したく、私も参加し、日光と福島名所の旅に行つてまいりました。後で皆様に色々な報告ができたらいいなと思っております。

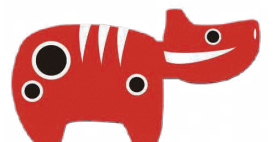
最後に、我々東海福島県人会は、福島県が復興再生をして更なる発展をすることを願い、東海地方から出来る限りの復興への後押しをしていきたいと考えておりますので、皆様方の御支援、御協力の程よろしくお願い申し上げます。

いあごさつ



発行所
 福島県名古屋事務所内
 東海福島県人会事務局
 〒460-0008
 名古屋市中区栄4-16-36
 久屋中日ビル5階
 TEL (052) 242-5216

Vol.45 (令和2年)





福島県知事
内堀 雅雄

東海福島県人会の皆様には、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

貴会は、昭和50年の発会以来、関本会長を始めとする歴代の役員並びに会員の方々のふるさとへの熱い思いと御努力により、会員相互の親睦を深められるとともに、東海地域と福島県との交流の輪を広げながら着実に発展してこられました。

心から敬意を表しますとともに、これまで本県が賜りました様々な御支援、御協力に厚く御礼を申し上げます。

東日本大震災と原発事故から9年半が経過する中、県人会の皆様を始めとする国内外からの温かい御支援と県民の懸命な御努力により、福島県では各種インフラや新たな拠点施設の整備が進んでいます。今年3月には、浜通り地域等の産業基盤再生を図る国家プロジェクト「福島イノベーションコースト構想」に基づき、その中核施設となる福島ロボットテストフィールドが全面開所したほか、9月には未曾有の複合災害の記録と教訓を伝える東日本大震災・原子力災害伝承館が開館するなど、福島県の復興は着実に前進しています。

また、来年3月、本県復興のシンボルであるJヴィレッジから、東京オリンピック・

パラリンピックの聖火リレーがスタートすることとなりました。震災以降、一歩ずつ復興を進めてきた福島県から出発する聖火は、多くの方々への「希望の道」を照らし出してくれるものと確信しています。さらに、福島市での開催を予定していた野球・ソフトボール競技についても、競技日程を踏襲し、実施されることとなりました。県といたしましても、本大会を通じて、これまで国内外から頂いた多くの御支援に対する感謝の思いと、復興の現状を広く発信できるように準備を進めてまいります。

一方で、今もなお多くの方が避難生活を続けておられるほか、被災者の生活再建や廃炉・汚染水対策、風評と風化の問題、急激な人口減少、令和元年東日本台風からの復旧など、福島県は多くの困難を抱えております。

さらには、今般の新型コロナウイルス感染症の影響で、日本中が未曾有の困難に直面しており、県人会の皆様には、ふるさとの親戚や友人の方々とうかがうことが出来ない方もおられることと思っております。

県といたしましては、こうした様々な困難を乗り越えるため、ふるさとの発展に思いを寄せてくださる県人会の皆様と心を一つにしなが、将来世代に誇りを持つて引き継ぐことが出来る「新生ふくしま」の創造に向け、果敢に挑戦を続けてまいりますので、これまで以上にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東海福島県人会のますますの発展と、会員の皆様の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。



福島県市長会長 相馬市長
立谷 秀清

東海福島県人会の創立45周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。今後のさらなる発展と皆様のご活躍を祈念いたします。

そして震災以来、東海福島県人会の皆様からいただいている温かい御支援に、市民を代表して御礼を申し上げます。ふるさとの復興に向けて市民一丸となつて二所懸命に取り組んでおりますので、今後とも温かくお見守りくださいますようお願いいたします。

さて、日々感染が拡大する新型コロナウイルス感染症について、福島県の対策をご紹介いたします。(福島民報社記事・令和二年五月十日掲載)

―県内の感染状況をどう見るか。
「擬人化すると分かりやすい。感染拡大を新型コロナウイルスが攻めてきていると見立て、仮にコロナ軍とする。現在、広く浅く多くの人を感染させる攻撃をしている。福島医大などに重症者を受け入れる病床が計十五床あり、感染が拡大しても十分に対応できる」

―今後の備えは。
「コロナ軍との戦いには武器や城が必要だ。武器は新型インフルエンザ治療薬アピガンなど。城は県内の医療体制に当たる。県内すべての感染者の管理や治療、症

状判断を福島医大に一元化し、重症者の治療に当たらせる。地域ごとに中等症、軽症の患者を担当する医療機関を適切に配置すれば極度に恐れる必要はない」
―医療崩壊を防ぐための取り組みが始まっている。

「医療関係者は徹底して感染拡大防止策を取りながら診療、治療をしている。発熱患者を一方所で集中診療する発熱外来の開設も進んでいる。複数の医療機関に感染が拡大し、医療崩壊する事態を防ぐ取り組みの一環だ」

―医療体制の維持に向けて何が必要か。
「長期戦に備え、一線で戦う医療機関の負担軽減をまず考えなければならぬ。医療関係者が感染しないよう防護服やマスクなどの資器材を十分に準備する必要もある。医療関係者のストレスへの対応も問題だ。医師らへの危険手当の支給、自宅に帰ることができない看護師らへの宿泊費補助など国や県は財政支援、必要な制度を検討すべきだ」

―休業自粛などによる経済の停滞、臨時休校期間の延長による教育の遅れなどを懸念する声が出ている。

「施設への休業要請に伴う協力を、国や県による緊急的な経済対策が打ち出されているが、いつまでの範囲で対策するのか不透明だ。県民が安心して生活できるよう、県には県民生活、経済状況、教育の現場などさまざまな面で長期化に伴うリスクを想定し、対応方法を企画して実行していく能力が求められる。冷静に正しく恐れる姿勢が欠かせない」



福島県町村会長
耶麻郡警梯町長

佐藤 淳一

東海福島県人会の創立45周年を迎えるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

会長はじめ会員の皆様方には、各分野でのご活躍により「ふるさとふくしま」の名声を高め、郷土発展のために格別のご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症は、国内外で猛威を振るっておりますが、首都圏や関西圏等の都市部を中心に感染が拡大し、本県においても連日、感染が確認されるなど、予断を許さない状況が続いております。

本会ではこれまで、国・県に対し、発熱外来の設置をはじめ、感染症対策等に関する要請を行ってきたところでありますが、今後さらなる感染拡大に備えて、医療提供体制の強化や追加の経済対策の実施等について、働き掛けてまいる所存であります。

さて、本県に未曾有の被害をもたらした東日本大震災と原発事故から9年半が経過いたしました。この間、全国各地から多くの温かいご支援をいただき、本県の復興は着実に進展しております。

国が指定した避難指示区域の範囲は順次解除が進み、発災当時から約8割が

解除され、医療機関の開設や新たに県立ふたば未来学園が開校した外、浜通りの大動脈である常磐自動車道、JR常磐線が全線開通いたしました。

また、この先の通常国会では、復興庁設置法等の一部を改正する法律が成立し、復興庁設置期間の10年延長や帰還・移住などの促進、営農再開の加速化など、復興・創生期間後の取り組みを支える体制・財源が盛り込まれたところであり、本県の実情を受け止めたものであると思っております。

しかしながら一方では、今もつて約4万人近い方々が避難生活を続けており、特定復興再生拠点区域以外の復興や廃炉・汚染水対策、風評・風化対策など、依然として解決すべき課題が山積しており、原子力災害の影響が続いている本県の復興には長い年月を要するものと思われま。

本会では発災以降、国、東京電力等に対し要請活動を実施しておりますが、今後も関係機関との連携を二層強化しながら、本県の復興・再生のため全力で取り組んでまいりますので、皆様方には引き続き、ふくしまの応援団としてご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東海福島県人会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



愛知県知事

大村 秀章

東海福島県人会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

貴会が、昭和50年の設立以来、長きにわたり会員相互の親睦を深めながら着実に発展してこられましたのは、関本会長を始め会員の皆様方の並々ならぬご努力の賜物と、深く敬意を表する次第であります。また、日頃から、愛知県政の推進に格別のご理解とご支援を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

始めに、今年は、年頭より全世界で新型コロナウイルスが猛威を振るう未曾有の事態に見舞われております。愛知県においても、新規感染者数は7月前半に収まっていた感がありましたが、7月半ば以降、急激に増加を続け、極めて厳しい状況となりました。このため、8月6日から24日までの間、県独自の「緊急事態宣言」を発出し、また宣言の解除後も引き続き「厳重警戒」の段階にあるとして、県民・事業者の皆様には不要不急の行動自粛と行動変容、感染防止対策の徹底等をお願いしてまいりました。これらの取組の結果、9月中旬には新規感染者数を始め指標としている値は改善され、全体として状況は落ち着いていると判断し、9月18日から「警戒領域」に移行いたしました。

県民・事業者の皆様、昼夜を問わず最前線で献身的に対応していただいている医療関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、今後も、社会経済活動とのバランスをとりながら、オール愛知で感染拡大の防止に取り組んでいくことが不可欠でありますので、引き続きご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

さて、愛知県では、7月28日に「ジブリパーク」の本体工事を起工し、また一歩、夢の実現に向けて歩みを進めることができました。日本が世界に誇るスタジオジブリの世界観を表現した唯一無二の公園施設として、世界中から多くの方にお越しいただき、愛知・日本を盛り上げていけるよう、2022年秋の開業に向けて着実に整備を進めてまいります。

また、11月22日には、日本最大規模の弥生時代の遺跡である朝日遺跡の魅力発信する拠点「あいち朝日遺跡ミュージアム」を清須市にオープンいたします。多彩な出土品を展示する体験型施設として、多くの方々々に文化遺産に親しんでいただけるよう、開業準備や広報活動に努めてまいります。

今後も、これらの主要事業を始め、産業の活性化やスタートアップ・エコシステムの推進に取り組むとともに、防災、教育、福祉、介護等の施策を充実させ、「すべての方が輝く愛知」を目指してまいりますので、格別のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

最後に、貴会をますますのご発展と、会員皆様のご健勝を心から祈念いたしまして、ご挨拶いたします。



岐阜県知事

古田 肇

東海福島県人会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より岐阜県政に対するご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

東日本大震災から10年の節目を迎えようとしています。現在も約140名の福島県民の方々が岐阜県内で避難生活を送っております。

福島県の復興の二層の前進を切に願うとともに、本県においても引き続き、できる限りの支援を行ってまいります。

さて、社会の在り方を一変させた新型コロナウイルスの感染拡大に対し、岐阜県では、感染症、医療、介護の専門家をはじめ、市町村、経済、観光、教育・子育てなど広範囲にわたる関係者とともに、いち早く構築したオール岐阜の連携・協力的体制で立ち向かっています。この体制のもとで、積極的かつ柔軟なPCR検査の実施や、2度の「非常事態宣言」、そして、この宣言と対をなす総合対策をはじめとして、独自の状況分析に基づいた対策をスピード感を持って打ち出してきました。

7月には、感染症対策の基本条例としては全国初となる「岐阜県感染症対策基本条例」を制定し、対策の基本理念と併せて、オール岐阜の推進体制、県専門家会

議の常設、コロナ差別禁止などについて定め、次なる感染拡大や新たな感染症に備える姿勢を明確にしています。

そして現在は、季節性インフルエンザとの同時流行も念頭に置いた「新たな波に備えた総合対策」に取組んでいます。

感染防止・医療福祉対策としては、検査能力を1,800件/日まで拡充するとともに、インフルとコロナの検査を身近な医療機関で簡易・迅速に行える体制の確立を進めています。また、病床(最大625床)と軽症者受け入れ施設(ホテル466室)を引き続き確保し、「自宅療養者ゼロ」を堅持していきます。

経済・雇用対策としては、企業同士の労働力のシェアマッチング支援、サテライトオフィスの誘致、デジタル変革の推進とともに、県内宿泊クーポンにより10万人の宿泊需要を創出する「安心ステイ」ほつと「息ぎふの旅」キャンペーンを展開し、観光の再生を進めています。今月には、関ヶ原の戦いを体感できるシアターや、古戦場を一望できる展望室等を備えた関ヶ原観光の拠点、「岐阜関ヶ原古戦場記念館」がオープンしました。本県ゆかりの明智光秀が主人公の大河ドラマ「麒麟がくる」についても、開発した土産物約300点を販売するECサイト「ぎふ戦国百貨繚乱」を開発するなど、戦国武将観光を一層充実させています。

教育対策としては、学校における感染防止対策の充実と併せて、県内での日帰り修学旅行の実施を支援しています。

また、これらの対策と同時に、感染者や医療関係者等に対する差別や排除を撲滅するため、県内全市町村長とともに

「ストップ」コロナ・ハラスメント」宣言」を發出し、感染者への「思いやり」と、医療関係者等への「感謝」を強く呼び掛けました。

この難局において、様々な対策とともに私達を支えるのは人との絆です。当面は一進一退の状況が続くと見込まれますが、皆で助け合いながら、コロナ社会を生き抜きましょう。

結びに、貴会の今後の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍、ご健勝を祈念いたします。ご挨拶といたします。



三重県知事

鈴木 英 敬

新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界中の人々の活動に影響を与え、日本においてもまだ終息のきざしが見えない状況です。そのなかで貴会におかれましては、会員相互の交流促進等の活動を続けてこられ、役員並びに会員の皆様のご努力に深く敬意を表します。

東日本大震災から九年を迎えた令和二年三月十一日、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、毎年継続して開催してきた県主催の追悼式を開催することができず、執務室で黙とうを捧げました。さまざまな災害が起こりうる日本においては、「震災の記憶を風化させない」というメッセージを今後も発信していくとともに、防災・減災対策を一層充実させなくてはな

りません。

また、昨年十二月には、福島県を訪問する機会を得て、震災からの復興状況、三重県と福島県の農業高校の学生達が切磋琢磨して取り組むGAP、福島県と協定を締結して取り組む「空飛ぶクルマ」を開発する福島ロボットテストフィールドなどを視察させていただきました。松川浦の漁港と卸売市場では若手や女性が元気に働いている様子を拝見しました。一方で、生産物の「安全」が消費者の「安心」につながっていないとの声もお聞かせいただきました。福島県をはじめ東北地方の復興にむけて、三重県としても引き続き息の長い支援や交流に取り組んでまいります。

さて三重県では、来年九月から十月にかけて、第七十六回国民体育大会「三重とこわか国体」と、第二十二回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」が開催されます。「とこわか(常若)」とは、「いつも若々しいこと。いつまでも若いさま。」を表現した言葉で、県民や来訪者の方々が活力に満ち、元気になるようにとの願いを込めています。出場する選手たちの素晴らしいプレイをご覧いただき、これまで努力を重ねてこられた選手たちを応援していただきたいと思っております。三重県ならではの心こもったおもてなしを磨き上げ、「三重とこわか国体」、「三重とこわか大会」の成功に向け十分に準備を進めてまいります。

会員の皆様におかれましては、ふるさと福島県と同様に、三重県の取組に対して、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。貴会のみならず、ご発展と、会員の皆様のご健勝を祈念して、ごあいさついたします。



関西福島県人会 会長
鈴木 直

東海福島県人会の皆様には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

貴会が昭和五十年の設立以来、ふるさとを同じくする方々の心のよりどころとして、会員相互の交流を深め、発展を続けられてきたことは、同じ「ふるさと福島」を想う当会としても誠に喜ばしい限りであります。これもひとえに関本会長をはじめ、県人会を支えておられる会員各位の御尽力の賜と、敬意を表する次第であります。

さて、早いもので東日本大震災から10年目を迎えております。この間「ふるさと福島」は復興の歩みを着実に続けております。今年3月14日には、常磐線が全線再開したほか、9月20日には、震災と原発事故の記録と教訓を将来に引き継ぐ「東日本大震災・原子力災害伝承館」が双葉町に開設されました。わずか1か月で1万人を超える来場者があったと聞いております。また、農業生産の面で、浜通り産コシヒカリが令和元年度産米食味ランキングにおいて「特A」を獲得したこと、非常に喜ばしく感じております。このような中で、私ども関西福島県人会は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、多くの活動が自粛を余儀なくされております。貴会におかれましても同様の状況かと存じます

が、慎重でありながらも「どうしたらできるのか」という視点で、ふるさと福島の復興のために取り組んで参る所存であります。

お陰をもちまして、関西福島県人会は、昨年、60周年の節目を迎えました。しかし、近年では会員の平均年齢が高まり、活動が制限される状況の中で、会の活性化をいかに図っていくかが課題となつております。コロナ禍もあり、臨時的な会報により会員間の情報共有を図っておりますが、これに加えてICTを活用するなど、従来の対面での活動をうまくバランスさせた新しいスタイルの活動を追求していく必要があると考えております。今後も、会の活性化に努めながら「一致団結してふるさと福島」の発展に寄与して参ります。

結びに、貴会が固い結束の下、「層の発展」を遂げられまともに、会員の皆様のごますの御健勝、御活躍を祈念いたしまして、あいさついたします。

東海福島県人会 令和元年総会・懇親会

令和元年11月3日(日)、名古屋市中区にある「名古屋国際ホテル『老松の間』」において、令和元年総会・懇親会を開催しました。

今回は母県福島県から鈴木竜次風評・風化対策監に御出席いただき、また、地元愛知県から大村秀章知事及び水野直樹県民生活部長、関西福島県人会から鈴木直会長、北海道東北6県の東海地区県人会の代表や来賓をお迎えし、盛大かつ厳粛に挙行しました。

会に先立ちまして、令和元年台風19号及び21号の被害により亡くなられた方に対し「哀悼の意」を込め黙祷を捧げました。吉田相談役の開会のことばで始まり、関本会長より会員である皆様に向けて御支援及び御協力に対するお礼のあいさつがありました。

続いて、関本会長を議長として議事に入り、市川副会長より令和元年度活動(事業)報告及び令和元年度収支決算報告について説明し、さらに、令和2年度事業計画(案)、令和2年度収支予算(案)、東海福島県人会会則改正(案)、及び令和2年度役員(案)が審議され、いずれも全会一致で承認となり、無事終了となりました。

総会終了後、ふるさとふくしまの復興の様子に分かる「ふくしまの挑戦2019」の動画を鑑賞しました。

東日本大震災及び福島第一原発事故は福島県に大きな傷跡を残しましたが、環境回復、インフラ整備、食の安全への取組など、復興への堅実な歩みに加え、新しい創生への取組が次々とスタートし、「挑戦県」として前進する、ふくしまの今と未来の姿について映像を通して感じることが出来ました。

引き続き懇親会に移り、鈴木風評・風化対策監、大村知事より御祝辞を賜りました。

鈴木風評・風化対策監は、「福島県の復興・復興は長期的な取組であり、新たな課題も出ておりますが、ホープツーリズムなど復興に向けて着々と進んでいるので、引き続き皆さんの協力をお願いします。」と述べられました。

また、大村知事は、「愛知県では東日本大

震災以降、職員派遣するなど福島県の復興を後押ししており、今後も引き続き応援していきたい。」と述べられました。

その後、前野監事による乾杯で幕を上げ、恒例の「お楽しみ抽選会」では福島県知事賞や愛知県賞などを始め、多数の賞品が用意され、ハズレくじなしの抽選に会場の皆様から大きな歓声が上がりました。また、賞品と合わせて、福島県の豊かな自然で育まれたオリジナルブランド米「天のつぶ」もお土産として出席者全員に配られました。

今回も多数の賞品を提供していただいた役員の皆様、並びに御協力いただいた団体の皆様に対し、改めて御礼を申し上げます。

続いて、入会された会員より一人ずつ自己紹介をいただき、仕事や趣味、故郷への想いなどバイタリティー溢れる報告に、会場は大変盛り上がりしました。

宴もたけなわとなり、下山田相談役の指揮の下で「福島県民の歌」、「東海福島県人会の歌」の合唱を行い、大原相談役による万歳三唱、三井副会長の閉会のことばでお開きとなりました。

今回は東海地方で御活躍されている本県出身の現役企業関係者にもお声掛けを行い、最終的に80名もの参加者を募ることができ、大盛会となりました。これもひとえに、企画委員及び事務局の皆様のおかげです。本紙をお借りして感謝申し上げます。

最後に、次回の総会・懇親会も会員の皆様が多く交流できる場となりますよう祈念して、私からの報告といたします。

報告者 広報委員長 野地 次雄

県人会の主な活動

東海福島県人会の事業活動報告

(令和元年10月～令和2年9月)

○総会の開催 令和元年11月3日

○総会以外の各種事業の開催

・令和元年10月10日

・令和元年度第3回役員会

・令和元年11月7日

・第48回親睦ゴルフコンペ

・令和2年2月5日

・令和2年度第1回役員会

・令和2年4月8日

・第49回親睦ゴルフコンペ

・令和2年7月13日

・令和2年度第2回役員会

○会報の発行

令和元年11月3日 発行

○他の県人会等との交流

・全国県人会東海地区連絡協議会の各種事業

・北海道東北6県東海地区県人会連絡会の各種事業

・中京北海道クラブ定時総会・懇親会

・中部青森県人会総会・懇親会

・東海岩手県人会総会・懇親会

・中京宮城県人会総会・懇親会

・東海秋田県人会総会・懇親会

・東海山形県人会総会・懇親会

・関西福島県人会総会・懇親会

・全国高等学校野球選手権大会

・福島県代表校激励会

・選抜高等学校野球大会

・福島県代表校激励会

親睦ゴルフコンペ

県人会親睦ゴルフコンペは年2回開催しております。

第48回親睦ゴルフコンペを令和元年11月7日(木)に開催し、三重県亀山市の「ローモンドカントリー倶楽部」にて39名の方が参加され、築山(棚)さんが優勝しました。

また、第49回親睦ゴルフコンペを令和2年4月10日(水)に開催し、三重県亀山市の「ローモンドカントリー倶楽部」にて25名の方が参加され、浜岡真雄さんが優勝しました。参加を希望される方は事務局まで御連絡ください。

同好会の募集について

東海福島県人会では旅行やゴルフコンペ等を通じて会員相互の交流を図っておりますが、さらに会員の繋がりを深めるために、共通の趣味を持った会員同士の交流の場を設けたいと考えております。ハイキング、カラオケ、写真等、何でも構いませんので、活動や同好会設立の御要望がございましたら、事務局まで御連絡ください。

新役員紹介



副会長
湯 浅 武 美

私はこの度、新たに副会長及び企画委員長に任命されました湯浅武美と申します。

出身は喜多方市(旧耶麻郡塩川町)で、子供の頃は、冬は長くて雪が多く、夏が短い。いつも晴れたと思っても、1〜2時間経つと曇りや雨だったような、晴れ間の少ない地方でした。

現在は日進市で自営業をしておりますが、愛知県は晴れが多く、安定した氣候で過ごし易いため仕事も捗り、今は余り行きませんが、釣りは毎週のように行っても天気に恵まれました。

趣味は観葉植物を育てる事、合気道で体を動かす事、釣り、カラオケ等です。大勢でワイワイやるのが好きなのですが、今年にはコロナ禍に見舞われて皆様同様、密を避けるべくステイホームです。

当県人会には、デパートで職を見て、箱根の山を越えてこの地で仕事をされている人がたくさん居られる事を知って入会し、以来29年となりました。

経済発展後バブル崩壊から東京一極集中による地方の人口減、派遣労働の合法化による経済格差、少子高齢化での人口

減は止まりません。当県会も同様、高齢化や会員数の減少に見舞われていまだ特効薬は見つかりません。私もその一人です。ですが「楽しむ」をテーマにカラオケやボーリング、ハイキング、花見等のレジャーを年に数回開催し、それが愛好会として定着し、さらに新しい愛好会が立ち上がっていくことで、共通の楽しみを求めて入会者が増えていけば、と思っております。

皆様のアイデア、ご要望等、お知恵を借り、県人会を盛り上げていくメンバーの一人になれるよう努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。



副会長
野 地 次 雄

今年度より新たに副会長及び広報委員長に就任しました野地次雄と申します。年々会員が減少傾向にある中で、このような大役を仰せつかり、身の引き締まる思いがいたします。昨年度までは専務理事で企画委員を担当しており、広報の仕事は1年生となりますので、御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

さて、副会長就任に伴い、簡単に自己紹介をさせていただきます。まず、出身は二本松市(旧安達郡安達



町)です。東は阿武隈山地、北は蔵王山、西は安達太良山に囲まれており、農家の人はこの山々の景色の移り変わりをしながら農作業をしていました。実家はJR松川駅から徒歩30分程度のところにあります。

現在は愛知県あま市に住んでおり、仕事も退職し、趣味である登山、サイクリング、カメラなどの技能向上に励んでおります。

当県人会への入会動機は、私の母校である川俣高校の先輩にあたる黒沢六郎様(伊達郡飯野町出身)から誘われたのがきっかけです。当時の総会にはサッポロビールの浩養園で開催されており、地下鉄鶴舞駅からサッポロビール工場北側までの徒歩往復で苦労していたことが思い出されます。

また、個人的な当県人会絡みの大きな出来事として、54歳になる年に、当時役員を務められていた助川健様(三重県)の御紹介で、今の妻である中国人と国際結婚を果たすことができました。これも当県人会のお陰であり、この御恩に報いるつもりで、副会長の仕事に全力で取り組む所存でおります。

最後になりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な自粛生活を余儀なくされていると思います。しかし、このような流行病は過去に何度も発生し、その度人類は乗り越えて今日まで生き続けて来ました。皆様、新型コロナウイルスに負けずに頑張りましょう。来年度は元気な姿でお会いしましょう。副会長として、皆様からアイデアなどをいただくながら積極的に活動していきたい

と思っておりますので、御協力よろしくお願いいたします。



事務局長
佐藤敏行

今年4月に名古屋事務所に着任しました、所長の佐藤敏行と申します。私が着任したことにより、当事務所には佐藤敏行、佐藤博之、佐藤正徳の3人の佐藤が在籍することとなり、電話等で混乱することがあるかもしれませんが、御容赦願いたいと思います。

私の出身地は、会津若松市で、謹教小、若松三中、会津高校が母校です。元プロ野球選手で千葉ロッテの外野手として活躍した諸積兼司は幼稚園から中学校まで同級生で幼なじみです。高校時代のクラスメイトには、NHKのアナウンサーで大相撲の実況やリオオリンピックの現地キャスターを務めた三瓶宏志がいます。

実家が市の中心部にあったので、神明通り周辺や鶴ヶ城周辺が遊び場でした。子供のころの神明通りは、中合やライオン堂、長崎屋、ニチダイゼンがあり、大変賑わっていました。今はほとんどなくなつてしまい、寂しい限りです。

県職員に採用後、最初の勤務地はいわき市でした。いわき市には計2回通算8年勤務し、東日本大震災の時もいわき市

で単身赴任をしておりました。震災後には、避難指示が出された富岡町役場に2年間派遣され、町の復興を支援しました。それ以外の期間は福島市の本庁での勤務です。現在の自宅は福島市にあり、名古屋では単身赴任をしております。

名古屋での勤務は初めてで、プライベートも含め東海地方の各地を訪問するなどして見聞を広めることを楽しみにしておりましたが、名古屋に着任してすぐに、新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が出されたため、事務所の業務も著しく制限されてしまい、東海福島県人会事務局長としての活動もほとんどできない状況となってしまいました。そのため、県人会の皆さんとお会いする機会もほとんど作ることができないまま、今に至ってしまい、大変心苦しく思っております。

特に今年度は、東海福島県人会創立45周年の節目の年であるにもかかわらず、総会を書面開催とせざるを得なかったのが非常に残念でなりません。

今後しばらくは、新型コロナウイルスの感染防止を図りながら、できることを少しずつ着実に取り組んでいくしかありませんが、その中で県人会の

事業活動についても、どのように進めるべきか検討していきたいと思っております。今後とも、東海福島県人会及び福島県名古屋事務所の各事業への御理解、御協力をお願いいたしますとともに、東海福島県人会会員の皆様の益々の御健勝を御祈念申し上げます。



日本橋 福島県のアンテナショップ。
日本橋ふくしま館
「MIDETTE(ミデッテ)」

- JR「新日本橋駅」より徒歩1分
- JR「神田駅」から徒歩5分 ● 東京メトロ「三越前駅」から徒歩3分

〒東京都中央区日本橋室町 4-3-16 柳屋太洋ビル1F
☎03-6262-3977 ☎03-6262-3978
🕒平日 10:30~20:00、土日祝日 11:00~18:00
📅12月31日、1月1日 🌐http://midette.com/



福島 おみやげはやっぱり物産館。
福島駅西口すぐ
福島県観光物産館

- JR「福島駅」西口より徒歩3分

〒福島県福島市三河南町 1番 20号
コラッセふくしま 1階
☎024-525-4031 ☎024-536-3188
🕒9:30~19:00 📅年中無休
🌐http://www.tif.ne.jp/bussan/bussankan/

「(公財)福島県観光物産交流協会 〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号(コラッセふくしま7階)
☎024-525-4080 [FAX] 024-525-4097

企画投稿

東海福島県人会員による NHK 連続テレビ小説「エール」に関連した活動について 二本松市出身 大場 米子

郷土ゆかりの偉人ちなむ書展

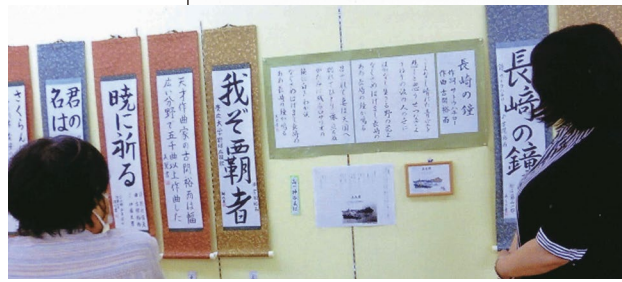
田原に生徒らの作品ずらり 古関裕而、金子夫妻テーマ



古関裕而を題材にした書道展ニショッピングセンターレイで

田原市榑江町のショッピングセンターレイ内で、地元の大場習字教室（同市保美町）大場米子（主宰）で種吉に励む子どもたちの作品展「郷土ゆかりの偉人 古関裕而と金子夫妻」が開催されている。月ほど延期したが、その

間には1月の展示に間に合わなかった生徒も作品を書き上げ参加した。会場には「愛知県民歌」の分筆をはじめ、「六甲おろし」「高原列車は行く」「長崎の鐘」「豊橋市歌」「オリンピック・マーチ」「栄冠は君に輝く」といった古関作品のタイトルや歌詞、書籍から採録した一文などを丁寧にまとめた作品が並ぶ。「書くことを通し、子どもたちが郷土に関心を持ちようになれば」と大場さん。妻は大場さんは福島出身。ドラマ勝数の際は署名活動にも奔走した。会場には、自身が何度か訪れた古関裕而記念館の関連資料なども展示している。（田中博子）



元中日新聞記者 早稲田大学出身とのこと。「早稲田ではこの歌を知らない人はいないと思う」 60代夫婦 「息子が早稲田大学出身なのでこの歌は僕等も知っている」

高原列車は行くについて 70代女性 「この歌は70才以上の人ならほとんど知っているはず」 40代家族6人 「おじいちゃんが大好きな歌なので歌っているのを聞いて小学生の男の子2人も覚えてうたう。楽しい」

長崎の鐘について 80代女性 「歌、大好き。映画も見た。歌うと涙になってしまう」 70代女性 「永井隆博士のこと浮かんで涙になる」 60代女性 「いい歌よね。私、長崎県出身です」

君の名はについて 80代女性 「いつもラジオにかじり付いていた。思い出す」

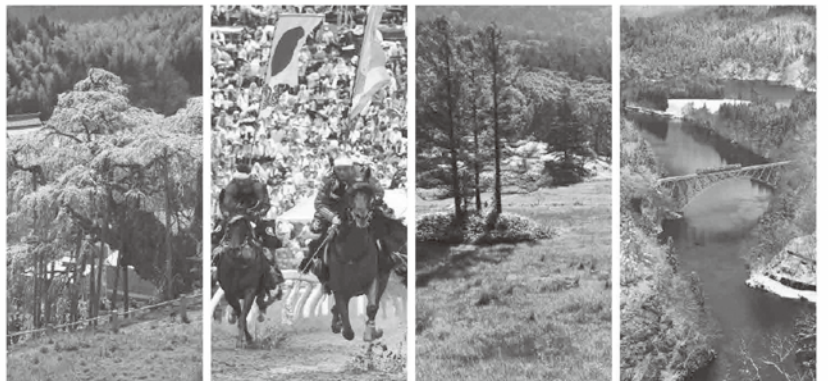
暁に祈るについて 96才男性 「戦争で友を亡くしたことを思い出した」他の作品も1枚1枚食い入るように見てくださった。

ひるのいこいについて 70代女性 「これ古関裕而？初めて知った。今でも昼に」

60代女性 「えっ！古関裕而？そうなんだ。ラジオから12時20分頃流れてくるよね」

古関金子について 70代女性 「金子さん69才で乳がんで亡くなったんだあ。早かったね」以前の初期の乳がんで治療を受けた方。

「日本一」のふくしまをつくる



三春滝桜 相馬野馬追 尾瀬 JR只見線

福島民報社 本社/福島市太田町13-17 ☎(024)531-4111(代) 大阪支社/大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞ビル4階 ☎(06)6345-6317 E-mail:hanbai@fukushima-minpo.co.jp



大場 米子 (雅号 京葉)
 故 青山杉雨先生(文化勲章受賞)師事(研究会)
 故 稲垣崧圃先生(県文化功労者)師事

東海福島県人会会員の大場米子と申します。出身は二本松市で、現在は田原市で大場習字教室を開いております。当県人会には、平成23年に東日本大震災の早期復興を願った応援メッセージの書道作品展を開催し、中日新聞が大々的に記事にしたところ、これを読まれた竹野保吉様(当県人会員:二本松市出身)が御夫婦で会場にお出で下さり、お誘いいただいたことがきっかけで入会しました。今年は皆様の署名活動により実現したNHK連続テレビ小説『エール』が大変好評ということで、私の『エール』にちなんだ取り組みの一部を皆様にご紹介させていただきます。これが昨今の新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な活動を自粛されている皆様へのエールになれば幸いです。



古関さんになみ書展
 来春朝ドラモデル 田原で元日から

県民歌「われらが愛知」や一九六四年の東京五輪の選手入場行進曲「オリンピック・マーチ」など生涯で五千を超える曲を作曲した古関裕而さん(一九〇九〜八九年、福島市大町出身)が二〇二〇年春の放送予定となっていることを受け、福島県出身の大場米子さん(左)と田原市保美町に企画。大場さんが主宰する習字教室に通う中高生二十三人を中心に「栄冠は君に輝く」「紺碧の空」など古関さんが作曲した曲のタイトルや歌詞を書いた作品約四十点が並ぶ。

会場には書き初めが体験できるコーナーも。大場さんは「中高生の方が一生懸命書いた作品。古関さんが作曲してきた曲をたどれば、こちらも楽しんでもらえる」と話した。(鈴木弘人)

皆々さまからの



古関裕而について
 70代男性 「5千曲以上も、どうやって作曲したんだろう。いい曲ばかりだけど」
 40代女性 「家族対抗歌合戦の時に審査してたね。優しい人だった」
 80代女性 「歴史に残る人だね。曲も同じね」
 70代女性 「なぜ、文化勲章を拒否したのかな?貰ってあげれば良かったのに」

愛知県民歌について
 60代男性 「元田原市長さん。マンドリンで演奏して貰いたいので譜面下さい。」
 70代男性 「小さい頃学校で歌った」いきなり歌い出し、終えたら「古関裕而の曲だったのかあ」と満面の笑み。

福島夜曲について
 70代女性 「竹久夢二の曲をね。聴いてみたい」

豊橋市歌について
 40代豊橋市民女性 「覚えたよ」

東京オリンピックマーチについて
 小中学生男子 お習字のおけいこ中にCDで曲をかけた途端、一斉に「運動会の曲だ!」と大きな声が。そして足踏みを始めた。室内ワイワイに。

栄冠は君に輝くについて
 小学生男子 「持久走大会はこれだ!」

とんがり帽子について
 86才女性 「小さい頃思い出して涙が出る」とうるうるに。
 80才女性 「いい曲だねえ。他の曲もだけどねえ」
 小1~小3女子 お習字のおけいこ中に、どんな反応があるか曲を流したら「ずっとかけておいて」「いつもかけて」と大変好評だった。

さくらんぼう大将について
 小1~小3女子 とんがり帽子と同じことばが返ってきた。少しだけすぐに覚え歌い出す小1年生。この2曲だけ歌詞をコピーして小1~小3女子の希望者にあげた。

六甲おろしについて
 中1男子 習字の手本を選ぶ際に「阪神タイガースファンだから」と。お父さんは関西のご出身。
 60代男性 「いい曲だから、時々カラオケで、歌うよ」
我ぞ覇者について
 70代男性 「我息子が行った大学だ。歌も勿論知っているよ」
 30代男性 「ここに顔で「我母校の歌はこれ」と指を指す。

紺碧の空について
 NHK職員男性 伊良湖ビューホテル宿泊 「古関裕而の作品展だ!」と言いながら親子3人で入室。
 「あ!これも古関裕而のだったあ?あ!これも、これもだ」この関心ありありの親子さんは何処からお出で下さったのかと思っているうちに、80代位の上品なお母さんが私の肩をポンポンと「うちの息子NHK職員なんですよ」と。ビックリ嬉し★古関先生の曲などの話に花が咲くこと35分。帰りしな「紺碧の空」の作品に指さして「これ母校だよ」と。また、1枚だけあった古関裕而記念館のパンフレットを差し上げましたら「記念館に行ってみた〜い★」と。至福の一時でした。

企画投稿

福島県が生んだ偉大な作曲家
古閑裕而氏を偲んで



常任理事 会津若松市出身
小林 秀明

私は野口英世の生誕地にほど近い旧日橋村で生まれました。猪苗代湖の清流が白虎隊の物語に出てくる十六橋をくぐって日橋川に注ぎ、塩川町の西で大川と合流し、やがて只見川と合流し阿賀野川となつて日本海に入ります。日橋村は河東村となり、今は会津若松市になっています。私の母校の河東第一小学校と県立会津高等学校の校歌は、現在、NHK連続テレビ小説『エール』の主人公のモデルとなつている古閑裕而氏の作曲です。高校の講堂の正面には「学而」と記された額が掲げられていました。

ここで、彼の作曲した「栄冠は君に輝く」を記したく、甲子園の話を書かせていただきます。今年の春の選抜はコロナ禍で中止となり、代わりに一回戦限りの交流試合が開催され、昨年の夏の選抜で21世紀枠に選ばれた県立磐城高等学校が出場しました。試合には惜しくも敗れましたが、この学校は母県有数の文武両道校で、昭和46年の夏には甲子園で準優勝の記録を持っており、当時の田村投手はその活躍が語り継がれており、今でも甲子園へ観戦に行つて、応援席で父兄と話すと結構話題になります。

ちなみに、私の母校は昭和三十四年の

春の選抜で甲子園の土を踏んでいます。私は高校球児ではありませんでしたが、名古屋へ来て半世紀経つた今でも、甲子園を観戦する度、母県で過ごした懐かしい高校時代が思い出されます。来年はコロナ禍も収まり、是非甲子園に母県代表の応援に行き、「栄冠は君に輝く」を聴きたいものです。

話は変わりますが、平成30年に第69回全国植樹祭が南相馬市で開催され、当県人会代表として私を含めた4人が参加しました(注1)。小雨の降る中、天皇、皇后両陛下をお迎えして、母県の復興や緑豊かな県土を願つたことが『福島民報』と『福島民友』の号外に掲載され、当時が懐かしく思い出されます。その際に、先日亡くなられた高校の大先輩である渡部恒三氏とお会いし、ツーショットを撮ることができました(注2)。先輩は田中角栄首相時代最も活躍された人物だと思つています。



(注1)



(注2)

また、その帰りに、福島駅前ホテルロビーで高校の同級生夫妻と会つてお茶を共にした時に撮つた「古閑裕而氏がピアノを弾いている像」がこの写真です(注3)。

この文を読んで、我が福島が生んだ偉大な作曲家古閑裕而氏を偲んでいたければ幸いです。

NHK連続テレビ小説『エール』を観て、彼と奥様である金子さんにエールを送つてあげてください。

最後まで読んで頂いた皆様に感謝!!

福島交通 夜行高速バス

名古屋⇄西郷・須賀川・郡山・二本松・福島

名鉄バスと共同運行

好評運行中!!



- 運賃
郡山まで 8,000円 ~ 11,000円
福島まで 8,000円 ~ 11,500円
※出発日により運賃が異なります。
- 所要時間
郡山まで 9時間26分 福島まで 10時間21分

おすすめポイント



- 全席リクライニングシートでコンセント、カーテンを備え付けております。
- 運転士2人体制にて名古屋～福島間を運行しておりますので安全体制も充実しております。
- トイレ付車両で運行しているからとても安心です。お飲み物を無料提供しております。
- 無料Wi-Fiを完備しており、移動中の車内が快適にお過ごしいただけます!!

予約・お問い合わせ

名鉄バス高速バス予約センター TEL052-582-0489 (受付時間 8:00~19:00)
福島交通株式会社 <https://www.fukushima-koutu.co.jp>



(注3)

45周年記念特集

特別寄稿①

双葉町に「東日本大震災・原子力災害伝承館」が開館しました！

館長 高村 昇



東日本大震災、および東京電力福島第一原子力発電所（福島第一原発）事故から9年が経過し、2021年3月には10年という節目を迎えます。この間、福島は原子力災害による避難、それともなう社会的混乱、風評被害、事故が収束してからの除染、避難からの帰還・地域復興、そして未だ先の見えない廃炉作業という誰も経験したことのない困難に立ち向かってきました。この10年間に福島で蓄積された震災と原子力災害の記録と記憶を国や世代を越えて伝えることは、今後の福島、さらには福島第一原発が立地する浜通りにとつて極めて重要であると言えます。

このような状況を踏まえ、福島県は福島第一原発が立地する双葉郡双葉町に「東日本大震災・原子力災害伝承館」（以下伝承館）を2020年秋に開館しました。私が住む長崎には原子爆弾による被害の実相を広く国内外に伝え、永く後代まで語り継ぐとともに、歴史に学んで核兵器のない恒久平和の世界を築くことを目的として「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」という施設がありますが、伝承館も同様の役割を果たすものと考えています。

伝承館の理念には、大きく次の3つがあります。すなわち、

- ①原子力災害と復興の記録や教訓の「未来への継承・世界との共有」
- ②福島にしかない原子力災害の経験や

教訓を生かす「防災・減災」
③福島に心を寄せる人々や団体と連携し、地域コミュニティや文化・伝統の再生、復興を担う人材の育成等による「復興の加速化への寄与」

です。世界初の甚大な複合災害の記録や教訓と、そこから着実に復興する過程を収集・保存・研究し、風化させず後世に継承・発信し世界と共有することは、被災を経験した人々の共通の想いです。震災後、被災した東北では伝承館と同趣旨の施設がすでにいくつかオープンしていますが、私たちの伝承館では、特に福島だけが経験した原子力災害をしつかり伝えることとしています。

伝承館は当初2020年7月に開館予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で内部のコンテンツ作りが遅れ、同年9月20日ようやく開館にこぎつけました。私自身も外出制限の影響でなかなか足を運ぶことができなかったのですが、ようやく6月上旬に初めて開館前の伝承館に伺うことができました。地震、津波、そして原発事故によって甚大な影響を受けた双葉町ですが、インフラの復旧や除染を経て2020年3月に一部地域の避難が解除され、伝承館もそのエリアに建てられています。三階建てでガラス張りの美しい建物では、20名あまりのスタッフが連日、多くの来館者を出迎えています（写真1）。



(写真1)

福島県はこれまで、24万点余りの資料を収集してきましたが、伝承館ではそのうち約170点を展示しています。資料の中には国内外からの応援メッセージやさまざまなイベントで配布されたプリントといった紙資料や、デジタルデータや現像写真、フィルムを

含む写真資料、さらには震災直後の映像や、川内村で避難を促した防災無線の音声などの映像・音声データなどが含まれています。津波や地震に加え、原子力発電所事故による被害を受けた福島は、岩手や宮城、さらには原爆の被害を受けた広島や長崎と違い、構造的に「破壊」されたものは比較的少なく、むしろ被災地全体が長期間に及んだ避難によって「タイムカプセル化」された状態で保存された状態になっています。そのため伝承館で収集された資料は、いわゆる「モノ（物）資料」よりも紙、映像、音声といった二次資料、さらには当時の混乱する福島の状態を報じた新聞や冊子といった二次資料が中心となっています。

館内ではまず、原発事故の経過を映像で振り返る約5分間のプロローグ（導入シアター、郡山市出身の西田敏行さんがナレーターを務められています）をご覧いただきます。プロローグでは展示の導入として、震災前の地域の生活、地震・津波そして原子力発電所事故の発生から住民避難、復興や廃炉に向けた取組について、床面を含めた7面スクリーンの映像をご覧いただけます（写真2）。上映後には螺旋状のスロープを、福島第一原発の建設から原発事故、復興、そして伝承館の開館までを時系列で記した年表を観ながら2階へ上がっていただき、展示フロアに入ります。



(写真2)

展示は、「災害の始まり」、「原子力発電所事故直後の対応」、「県民の想い」、「長期化する原子力災害の影響」、そして「復興への挑戦」の5つのゾーンに分かれています（写真3〜7）。「災害の始まり」のゾーンでは、震災前の平穏な日常から、地震と津波、それに続く原子力発電所事故の発生を、事故前・事故発生時・事故直後の経過を時系

列でたどり、原子力災害の始まりを克明に、臨場感と共に発信しています。「原子力発電所事故直後の対応」のゾーンでは、原子力発電所事故後の避難、避難生活の変遷、国内外からの注目など、原子力発電所事故発生直後の状況やその特殊性を、証言などをもとに振り返っています。「県民の想い」のゾーンでは、震災前の平穏な「故郷の日常」と、その「日常」が原子力発電所事故を機にどのように変わってしまったのか、様々な県民の想いを、証言や思い出の品などの展示を組み合わせて発信しており、「長期化する

読み込むことで、
見えてくるものがある。

知識は人を育てる。

福島民友

ご購入のお申し込みは ☎0120-152214へ



(写真3)



(写真5)



(写真7)



(写真4)



(写真6)

原子力災害の影響のゾーンでは、原子力災害が長期化する中で、発生した様々な影響とそれに対応について資料や解説を通して学んでいただけるようになっていきます。そして最後の「復興への挑戦」のゾーンでは、困難を乗り越え復興に挑戦する福島県の姿を紹介しており、廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想などの行政の取組、そして県民が取り組む復興へのチャレンジに関する情報を発信することにより、県内の他施設、地域への回遊を促すとともに、まちづくり体験等により、来館者の方々に福島の未来について考えていただくきっかけを作っています。

これらのゾーンの展示資料、豊富な映像は、充分に見ごたえがあるものですが、一方でこれまでに収集してきた資料のごく一部であることも事実です。伝承館では、来館さ



(写真8)



(写真9)

れた方々の声や有識者の意見等も参考しながら不断の努力を続け、より充実した展示の整備に努めていきたいと思えます。

加えて伝承館では、これらの展示に加え、「語り部講話」を連日行っています。災害を経験した方々の生の声を聞き、当時の体験を自分の事として体感することで、防災への理解が深まるものと考えています(写真8)。また伝承館では、複合災害を考え、教訓を得ることを目的とした「研修プログラム」を来館団体のニーズを踏まえて提供しています(写真9)。すでに2020年9月には福島大学と長崎大学が共催した「環境放射能セミナー」を伝承館において開催しましたが、今後は国際的規模のものを含めた研修プログラムを開催していきたいと考えています。2020年10月にオープンした隣接する双葉町の産業交流センターや国内外の大学、あるいは国際機関等とも連携しながら国内外の若手専門家や学生等を対象としたセミナーを開催し、防災やリスクコミュニケーションの専門家を養成していきたいと考えています。さらに伝承館では、「被災地へ



(写真10)

行つて、体感する「フィールドワーク」として、津波や原子力災害で被災した施設や復興の状況を見て、学ぶためのツアーを行っていきます(写真10)。

さらに今後伝承館では、これまでの福島における災害への対応、復旧・復興に係る経験と記録を教訓として体系化し、教訓を抽出するとともに様々な手法で情報発信を行うことで、復興および防災を担う人材の育成を図ることを目的として、調査・研究事業を行う予定です。伝承館における調査・研究は、世界で唯一の地震、津波と原子力災害という複合災害を経験した福島において、そこから得られた教訓を、世代を超えて継承するためには必要不可欠な事業であると考えています。具体的な研究テーマについては、これから議論を深めていきたいと考えていますが、予想していなかった原子力災害の発生において、放射線影響への懸念にどのように対応したのか、リスクコミュニケーションがどのようにして行われたのか、あるいは複合災害において行政がどのような対応をとったのか、地域コミュニティや地域産業が、原子力災害による崩壊を経て、どのように再生していったのか、その中で住民意識はどのように変遷していったのか、などといったことについて、専門家や学会等とも連携しながら研究を進めていきたいと考えています。

2011年の原発事故からまもなく10年が経過しようとしています。私自身は事故直後から福島県の放射線健康リスク管理アドバイザーとして県内各地でクライシスコミュニケーション(危機発生時のコミュニケーション)を行ってきました。さらに事故の収束後は、いち早く帰還を開始した川内村に長崎大学の復興推進拠点を設置して支援を行ったほか、富岡町、さらには大熊町への支援も行ってきました。帰還から8年が経過した川内村は住民の帰還率が8割を超え、日常を取り戻しつつ村の将来を見据えた取り組みが進められています。その一方

事故から6年後に帰還を開始した富岡町は帰還した住民はまだまだ限られているのが現状で、まだまだ復興の途上にあると言えます。2019年に一部地域の帰還を開始したばかりの大熊町は、復興の緒に就いたばかりの感があります。このように現在の福島は、地域や自治体によって状況が大きく異なっており、今後も地域の状況、特性に合わせた復興支援が必要であると考えています。事故から10年近くが経過し、多くの日本人にとって福島原発事故が過去のものとなりつつあります。しかしその一方で、福島県では県内避難者が7,500人余り、県外避難者が29,500人余りで、あわせて37,000人余りの方(2020年9月時点)が、いまだ故郷に帰還できない状況にあることを、私たちは忘れてはならないと思えます。

私自身は医療、特に被ばく医療の専門家であり、いわゆるアーカイブズの専門家ではなく、福島県から伝承館の館長就任を打診されたときには大変驚きました。しかし、この10年あまり長崎と福島を行き来しながら、福島の復興に多少なりとも関わってきた者として、福島の復興の証を次の世代に伝え、福島の経験を活かして国内外の人材を育成するという伝承館のミッションに共鳴し、館長就任を引き受けた次第です。今後は私もスタッフの一人として、来館された方が来てよかったと思える、学びに来られた方に十分な知識を提供できる伝承館にすべく、またそのことを通じて「浜通り」を新たな産業、教育の一大拠点とする「福島イノベーション・コースト構想」の一翼を担うべく、尽力したいと思います。近いうちに東海県人会の皆様と、伝承館でお目にかかることを楽しみにしております。なお、伝承館の詳細については、ホームページ(<https://www.fpo.or.jp/lore/>)や、福島イノベーション構構のFacebookとつながったソーシャルメディアで適宜情報を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

45周年記念特集

特別寄稿②

福島県の復興の現状と取組について

福島県企画調整部 復興・総合計画課

1 はじめに

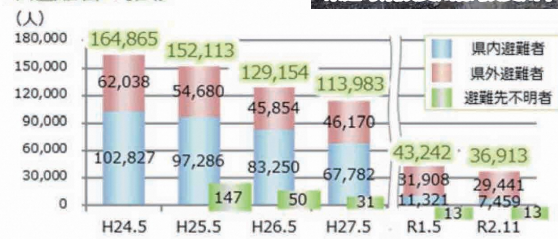
東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故(以下、「震災」という)から10年目となります。今年の3月には全町避難が続いていた双葉町の二部地域で避難指示が解除されたほか、福島ロボットテストフィールドが全面開所するなど、福島県の復興は着実に前進しています。

一方で、今もなお、3万6千人を超える方々が避難生活を続けておられるほか、根強く残る風評、急速な人口減少と高齢化の進行、さらには、令和元年東日本台風などの自然災害や、新型コロナウイルス感染症の影響など、福島県の復興は今後も長い戦いが続きます。本稿では、福島県の現状とその取組についてご紹介します。



東日本台風の被害
県道母須須賀川線(須賀川市和田地内)

◆避難者の推移



令和2年3月14日
JR常磐線全線運転再開

(2) 公共インフラ
被災地の経済発展の基盤となる交通網の整備が進みました。今年3月にはJR常磐線が全線で運転を再開し、相馬福島道路(東北中央自動車道)についても今年度中には全線で開通の見込みです。また、災害復旧工事については帰還困難区域を除いて約96%が完了し、対象の2,165件のうち残りは77件となっています。

【災害復旧工事の進捗状況】(令和2年5月31日現在)



2 復興の現状と取組
(1) 除染の完了及び空間線量の低減
帰還困難区域を除いて2018年3月末で面的除染が完了しました。自然減衰の効果も含めて県内の空間線量は大幅に低減したため、避難指示区域のインフラや生活環境の整備が進み、被災12市町村の避難指示解除が段階的に進みました。震災直後に県土全体の約12%を占めていた避難指示区域の面積は約2.4%までに縮小しました。



【参考】 県内の空間線量

(4) 農林水産業の再生
帰還困難区域を除き、田んぼや畑の除染も完了し、農業全般の産出額は震災前の約90%まで回復しました。また、県産農林水産物の安全性を確保するためモニタリング検査を実施していますが、ここ数年の間、河川、湖沼の魚類を除き、基準値を超過したものはありません。なお、主食となる米については市場に流通するもの以外も含めすべて検査(全量全袋検査)を行ってきましたが、平成27年産米以降、基準値を超過したものが出ず、一定の安全性が確認されたため、令和2年産米からモニタリング検査に移行しました(被災12市町村を除く)。

一方で、震災から9年半以上経過した現在もなお、風評などの影響により県産農水産物の価格と全国との価格差は震災前の水準まで回復していません。

【商業施設】



複合商業施設(楢葉町)

【医療施設】



ふたば医療センター附属病院(富岡町)

【教育施設】



ふたば未来学園中学校・高等学校(広野町)

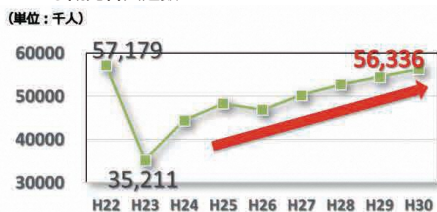
【災害公営住宅】



災害公営住宅(大熊町)

(3) 生活環境の整備
避難指示が解除された区域では住民の方々に安心して住んでいただけるよう、商業施設や医療施設、教育施設、災害公営住宅など生活環境の整備が進んでいます。平成30年4月には双葉郡唯一の二次救急医療機関としてふたば医療センター附属病院が開院しました。

○観光客入込数



○外国人延べ宿泊者数(H22年=100%とした場合)



(5) 観光業の振興

観光業については、指標の一つである観光客入込数が震災前の水準まで回復しているものの、全国の伸び率と比べると開きがあります。また、外国人延べ宿泊者数についてはインバウンドの影響もあり震災前の水準より大きく伸びましたが全国の伸び率とは大きな開きがあります。

【福島県の農業全般の産出額】

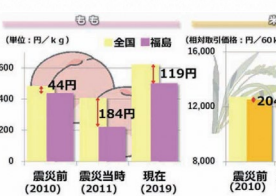


【放射性物質の検査基準】

項目	日本	EU	米国	CODEX
検査基準	100	1,250	1,200	1,000

【放射性物質の検査結果】

種別	検査数	基準値超過品数
玄米(2019年度)	約937万点	0件
野菜・果実	2,147件	0件
畜産物	3,746件	0件
栽培野菜・キノコ	975件	0件
海産魚介類	5,054件	0件
内水面養殖魚	60件	0件
山菜 野生キノコ	768件	0件
河川 湖沼の魚類	1,072件	4件



(6) 商工業の振興

製造品出荷額等については、県全体では震災前の水準に回復しましたが、震災の影響が大きかった双葉郡については、震災前の2割程度にとどまっています。このことから、双葉郡を含む浜通り地域については、震災によって失われた産業・雇用の回復のため、産業基盤を新たに構築する必要があります、そのためのプロジェクトが「福島イノベーション・コースト構想」となります。



(7) 福島イノベーション・コースト構想

福島イノベーション・コースト構想とは、震災によって失われた浜通り地域等の産業・雇用を回復するため、新たな産業基盤の構築を旨として2014年6月にまとめられたものです。福島復興再生特別措置法の改正(平成29・5・19公布・施行)により法律に位置付けられ、国家プロジェクトとして、より一層推進されることになりました。

構想を進めるため、廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境リサイクル、農林水産、医療関連、航空宇宙の6分野を重点分野とし、様々な取組を展開しています。例えば、ロボット・ドローンについては、世界に類を見ない「大研究開発拠点」である福島ロボットテストフィールドにおいて、研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行っています。また、農林水産分野については、被災地の営農再開に向けて、ロボットトラクターやドローンなどを活用したスマート農業の取組が行われています。



福島ロボットテストフィールド

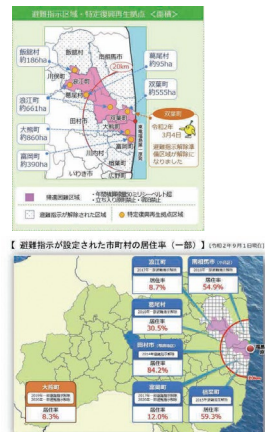


ドローンによる農業散布

3 課題

(1) 居住率

震災後から避難指示解除までの期間が長いところほど、帰還が進まず居住率が低い傾向にあります。帰還できる環境を整えることはもちろん、新たな住民を増やすため、移住・定住の支援や関係人口・交流人口の拡大にも取り組んでいく必要があります。



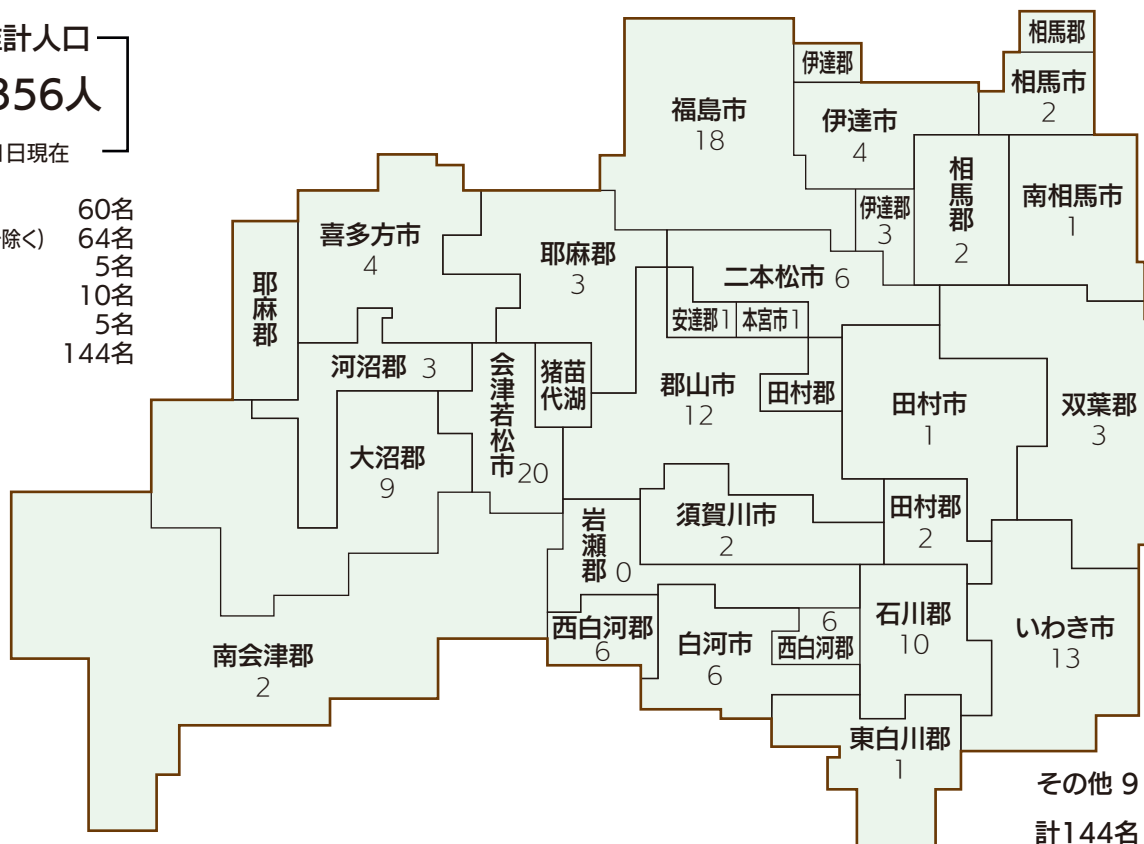
東海福島県人会会員名簿(令和2年9月30日現在)

氏名	出身地	氏名	出身地	氏名	出身地	氏名	出身地
あ 浅沼 定雄	会津	菅野 路子	会津	関本 幸夫	会津	平塚 武	会津
荒井 利昌	中通り	菊池 隆雄	中通り	た 高木 豊	中通り	藤田 真吾	会津
安西 正敏	会津	北川 美恵子	浜通り	高崎 泰	中通り	藤田 ハル子	浜通り
安藤 泰子	会津	木全 正夫	浜通り	高信 善人	中通り	二面 謙一	浜通り
安藤 幸恵	中通り	木村 淳子	中通り	高橋 信雄	中通り	古市 候史	浜通り
五十嵐 強	会津	國井 太多志	中通り	高橋 雄大	中通り	星 金次	会津
石井 五郎	中通り	國分 敬一	中通り	高橋 美夫	中通り	星野 勝	会津
石井 徳茂	中通り	小林 秀明	会津	竹野 保吉	中通り	星 芳雄	会津
石井 弘子	岩手県	古俣 泰浩	会津	竹元 洋子	中通り	本田 健司	中通り
石川 博三	中通り	小室 洋文	中通り	田崎 実	会津	ま 前野 康夫	会津
伊藤 千晴	愛知県	紺藤 義雄	中通り	谷 玄信	会津	牧原 伸一郎	会津
市川 友久	中通り	さ 齋藤 隆夫	浜通り	都築 陽子	中通り	松浦 清彰	中通り
伊藤 盛恵	会津	佐治 孝	会津	富川 和朋	中通り	松野 博朗	浜通り
岩崎 信彦	浜通り	佐竹 正和	会津	な 中井 廣子	中通り	三浦 武	中通り
浦井 八郎	中通り	佐藤 恭平	会津	長井 政造	会津	水谷 正巳	愛知県
江上 直子	中通り	佐藤 健一	中通り	長坂 牧子	中通り	三井 正春	会津
遠藤 宙	中通り	佐藤 長蔵	中通り	永沼 輝子	中通り	南 佳代子	会津
大内 哲男	会津	佐藤 博	浜通り	永沼 宣洋	中通り	三森 光三	中通り
大島 暁爾	会津	佐藤 まさひさ	中通り	中野 玉代	中通り	宮島 徹也	会津
太田 賢一	中通り	佐藤 祐次	中通り	中村 伊佐夫	会津	村上 ゆき子	中通り
大竹 敦	中通り	三瓶 長雄	会津	七海 正三	浜通り	毛利 京申	北海道
大束 祥順	会津	塩見 奈保美	浜通り	新妻 秀規	その他	森 孝一	浜通り
大塚 みどり	中通り	鹿戸 恒雄	中通り	新妻 実	浜通り	や 柳内 芳彦	浜通り
大坪 信仁	愛知県	穴戸 カヨ	中通り	根本 昭二郎	浜通り	矢吹 孝男	中通り
大野 範章	会津	柴田 道昭	中通り	野内セサル良郎	中通り	矢吹 哲男	中通り
大橋 通雄	会津	下山田 二三夫	中通り	野地 次雄	中通り	湯浅 武美	会津
大場 米子	中通り	白土 次郎	浜通り	能登 紀子	中通り	横田 一伸	浜通り
大原 隆弘	会津	神 正	会津	は 萩原 祥子	中通り	吉田 親	中通り
岡崎 孝子	中通り	菅野 洋幸	中通り	橋本 一弘	中通り	吉田 太一	浜通り
岡村 敬子	中通り	菅原 孝一	愛知県	橋本 昭吾	中通り	吉田 弘	中通り
か 角田 四郎	中通り	鈴木 亜紀子	中通り	籾野 彩華	中通り	わ 脇谷 愛	中通り
各務 リ工	中通り	鈴木 康一郎	静岡県	服部 民夫	愛知県	渡邊 次彦	中通り
笠間 忠英	会津	鈴木 幸喜	会津	馬場 俊介	会津	渡部 守	会津
加藤 キイ子	中通り	鈴木 志	中通り	早川 慶子	浜通り		
加藤 多美子	中通り	鈴木 力夫	会津	林 敏明	浜通り		
加藤 由香	中通り	瀬尾 恵美子	中通り	原田 正道	中通り		
亀井 利香	浜通り	関 巖	会津	平井 松枝	浜通り		

会員出身地別分布表 (令和2年9月30日現在)

福島県の推計人口
1,826,356人
令和2年9月1日現在

- ・名古屋市 60名
- ・愛知県(名古屋市を除く) 64名
- ・三重県内 5名
- ・岐阜県内 10名
- ・その他 5名
- 計 144名



東海福島県人会役員等名簿 (令和2年10月1日現在)

役職名	氏名	新・再任	出身地	専門委員会
会長	関本 幸夫	再任	喜多方市	
副会長	小室 洋文	〃	中島村	企画
〃	野地 次雄	〃	二本松市	広報(長)
〃	平井 松枝	〃	いわき市	企画
〃	三井 正春	〃	会津若松市	組織(長)
〃	湯浅 武美	〃	喜多方市	企画(長)
専務理事	市川 友久	〃	白河市	
常任理事	大内 哲男	〃	会津美里町	企画
〃	小林 秀明	〃	会津若松市	広報
〃	佐竹 正和	〃	会津美里町	組織
〃	鹿戸 恒雄	〃	福島市	広報
監事	前野 康夫	〃	会津若松市	
相談役	伊藤 盛恵	〃	西会津町	
〃	岩崎 信彦	〃	相馬市	
〃	太田 賢一	〃	福島市	
〃	大束 祥順	〃	会津若松市	
〃	大原 隆弘	〃	〃	
〃	角田 四郎	〃	石川町	
〃	柴田 道昭	〃	福島市	
〃	下山田二三夫	〃	中島村	
〃	高橋 信雄	〃	二本松市	
〃	平塚 武	〃	会津若松市	
〃	増子 富毅	〃	郡山市	
〃	柳内 芳彦	〃	いわき市	
事務局長	佐藤 敏行		会津若松市	

合計24名 企画委員会/4名 組織委員会/2名 広報委員会/3名